

研修テーマ	葉にでる病気について 同一菌類に侵されても宿主により異なる病徴 同一病名でも異なる原因菌	参加者	埼玉支部 22名、 他支部 20名
講師	本橋慶一（東京農業大学電子顕微鏡室准教授）	場所	With You さいたま 視聴覚セミナー室
資料	要旨集	記録	皆方 訓久
目的	植物の病気を引き起こす菌類の分類やその病徴についての検証		

研修内容

本橋慶一氏（東京農業大学電子顕微鏡室助教）に、パワーポイントを用いて、「葉にでる病気」と「*Phyllosticta* 属菌によるマンサク・ハナノキ」について講義していただいた。

総論 葉にでる病気について

- ・病気とは？
- ・植物(樹木)に規制する病原
- ・各病原体が引き起こす植物病害
- ・植物病名と病原体の関係
- ・*Phyllosticta* 属菌が引き起こす樹木病害

各論 *Phyllosticta* 属菌によるマンサク・ハナノキについて

○マンサクの病害

- ・1999年、愛知県においてマンサク属の葉枯れや枯死の被害が報告され、被害の大きい地域では、枯死または枯死寸前の個体が95%に達し、マンサク群落の消滅が危惧されている。
- ・青森県から広島県にかけての本州・四国の各地でその被害が確認されている。
- ・5～6月に発病する。罹病葉の徹底した除去が最も有効な対策。



○ハナノキの病害

- ・ハナノキやウリカエデの病害は、海外からの導入病害の可能性はある。
- ・葉の展開する直前に感染し、9～11月に発病する。
- ・経済的な損失は軽微。

